TDK

120期 株主通信 証券コード:6762

TDK Today

Vol.57

2015年4月1日▸
2016年3月31日

特集

IoT（モノのインターネット）時代に向けたTDKのチャレンジ

株主の皆様へ

ごあいさつ
株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。
このたび、代表取締役社長に就任いたしました石黒成直でございます。
新たな経営体制のもと、TDKグループの企業価値の一層の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申しあげます。

プロフィール
石黒　成直(いしぐろ しげなお)
1957年10月30日生まれ。1982年1月に当社入社後、欧州での事業企画部門、ヘッドビジネスグループ ゼネラルマネージャーを経て、2014年6月に執行役員に就任。その後、磁気ヘッド&センサビジネスカンパニーCEO、常務執行役員を経て、2016年6月、代表取締役社長に就任。

代表取締役社長　石黒　成直

2016年3月期の業績について

2016年3月期(2015年4月1日から2016年3月31日まで)の連結業績についてご報告申しあげます。

当期におけるエレクトロニクス市場を概観しますと、スマートフォンの生産は、中国市場においても引き続き需要が拡大し、前期の水準を上回りました。自動車の生産は、米国での堅調な販売に支えられ前期に比べ若干増加しました。一方、パソコンの生産は、WindowsXPサポート終了に伴う買替え需要が底堅く推移した前期に比べ減少しました。また、ハードディスクドライブ(HDD)の生産も、データセンター向け需要は底堅く推移しているものの、パソコンの需要減やパソコン内部のHDDからソリッドステートドライブ(SSD)への置換えが進んだ影響を受け、前期に比べ大幅に下回って推移しました。

このような経営環境の中、当社の連結業績については、売上高は過去最高を更新し、4期連続の増収増益となりました。

2016年3月期　連結業績概要

売　上　高	1兆1,523億円（前期比　6.4%増） ＊過去最高
営　業　利　益	934億円（　同　28.8%増）
当社株主に帰属する当期純利益	648億円（　同　31.2%増）

※当期における対米ドル及びユーロの期中平均為替レートは、120円13銭及び132円67銭と前期に比べ対米ドルで9.4%の円安、対ユーロで4.5%の円高となりました。

<2016年3月期決算のポイント>

■売上高は過去最高を更新し1兆1,523億円

受動部品、フィルム応用製品セグメントで過去最高の売上を達成しました。一方、磁気応用製品セグメントはHDD需要の減少で期初想定より大幅に減少しました。

■営業利益は前年より28.8%増の934億円

受動部品、フィルム応用製品セグメントの利益が過去最高を更新し、HDDヘッドの下振れをカバーしました。さらなるHDDの需要減少を見据えて、HDDヘッド部門のリストラを実施しました。

■中期経営計画に沿って成長投資を実行 ICT(情報通信技術)から車載、産業機器向けビジネスの拡大へ

成長を加速するためのM&Aを実施しました。米国クアルコム社(Qualcomm Incorporated)と合弁会社の設立及び広範囲な事業領域における協力について合意しました。また、戦略成長製品(センサ・アクチュエータ、エネルギーユニット、次世代電子部品)のさらなる拡大に向け、積極的に投資を実行しました。

● 受動部品セグメント

売上高　5,757億円（前期比　8.2%増）
営業利益　664億円（　同　81.4%増）

・セラミックコンデンサは、自動車市場向け販売が堅調に推移し、前期比で増収増益となりました。
・インダクティブデバイスは、自動車市場向け販売が堅調に推移し、前期比で増収増益となりました。
・高周波部品は、ICT市場向け販売が堅調に推移し、前期比で増収増益となり、特に、生産性改善効果や品種構成の良化により、利益率も前期より大幅に改善しました。
・圧電材料部品は、カメラモジュール用部品(OIS)の販売増加により、前期比増収増益となりました。

● 磁気応用製品セグメント

売上高　3,153 億円（前期比 13.2% 減）
営業利益　132 億円（　同　55.6% 減）

・記録デバイスは、HDD市場の縮小により、HDDヘッドの出荷数量が大幅に減少し、前期比で大幅な減収減益となりました。
・マグネットは、HDD市場向け販売の減少に加え、原油安や中国経済の減速により、自動車(xEV*)及び産業機器市場向けの販売も減少しました。
*xEV:HEV(ハイブリッド車)、PHEV(プラグインハイブリッド車)、EV(電気自動車)
・電源は、半導体製造装置、計測機器等の産業機器市場向け販売が引き続き堅調に推移しました。

● フィルム応用製品セグメント

売上高　2,224 億円（前期比 47.0% 増）
営業利益　364 億円（　同　48.0% 増）

・エナジーデバイス(二次電池)は、北米主要顧客でのシェアアップと顧客ポートフォリオの拡大が寄与し、前期比で大幅な増収増益となりました。また、ドローン等スマートフォン以外のアプリケーション向けの販売も堅調に推移しました。

2017年3月期の取り組みについて

<事業展開について>

次の通り、各セグメントにおいて積極的な事業展開を図ってまいります。

●受動部品セグメント
・インダクティブデバイス:ICT、車載市場向け薄膜製品、積層製品のシェア拡大
・高周波部品:小型・高特性ディスクリート品やモジュールの販売拡大
・圧電材料部品:OISビジネスの拡大(中国向けスマートフォンへの搭載率の向上)

●磁気応用製品セグメント
・HDDヘッド:パソコン需要減少とSSD化加速によるHDD市場台数縮小に対応した各種合理化施策の実施
・センサ:車載市場向けセンサの拡大

●フィルム応用製品セグメント
・二次電池:モバイル機器薄型化によるポリマー電池需要や新規アプリケーション需要の拡大を捉えた販売拡大、需要に見合った生産拡大投資及び合理化投資の継続

<業績と配当の見通しについて>

2017年3月期における連結業績予想及び一株当たり配当金見通しは以下の通りです。

売　上　高	1兆1,600億円（当期比　0.7%増）
営　業　利　益	740億円（　同　20.8%減）
当社株主に帰属する当期純利益	500億円（　同　22.8%減）

※通期の平均為替レートは対米ドル110円、対ユーロ125円を想定(2016年4月28日時点)。

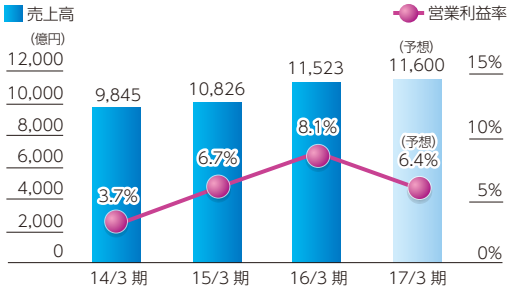
中　間　配　当	60円（当期 60円）
期　末　配　当	60円（　同　60円）
年　間　配　当	120円（　同 120円）

当社は、中長期的な企業価値の向上を実現することが株主価値の拡大に繋がると認識しております。そのため、エレクトロニクス市場における急速な技術革新に的確に対応すべく、重点分野の新製品や新技術を中心に成長へ向けた積極的な投資を行うことで、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。
株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

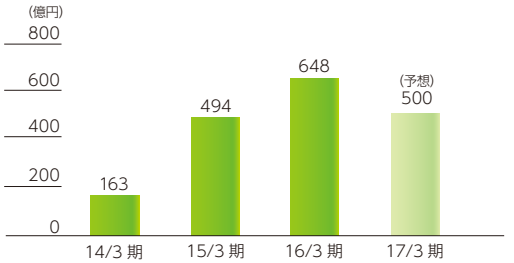
代表取締役社長　石黒　成直

【主要財務指標等の推移】

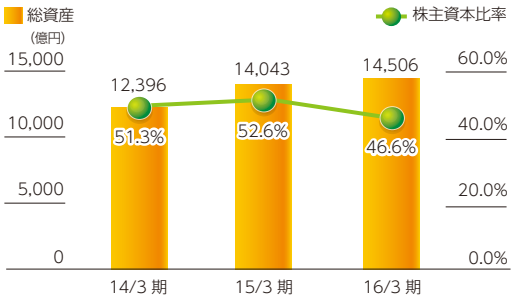
売上高及び営業利益率



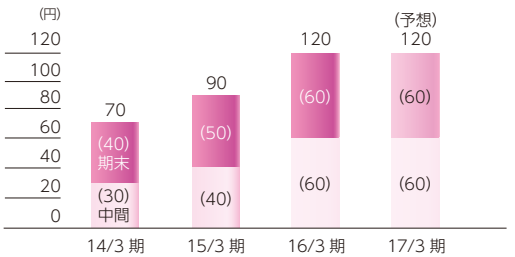
当期純利益



総資産及び株主資本比率



1株当たり配当金



(予想：2016年4月28日発表)

市場分野別売上の状況 (2016年3月期)

アルミ電解コンデンサ

電源

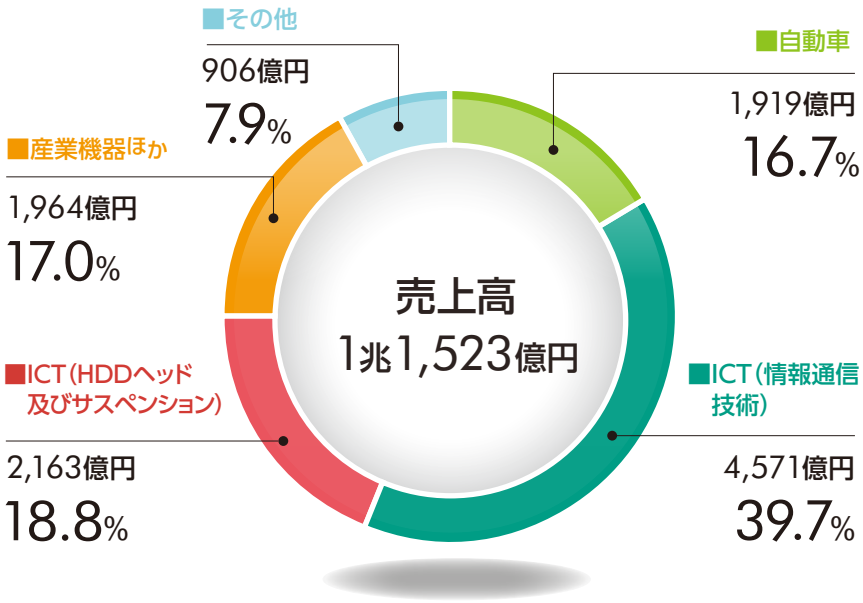
HDD用磁気ヘッド

HDD用マグネット

・半導体製造装置や計測機器向けの電源の販売が、好調であったものの、原油安や中国経済の減速により、受動部品やマグネットの販売が減少し、前期比でほぼ横ばいとなりました。

・パーソナルコンピュータ需要の減退やソリッドステートドライブ(SSD)の増加によるハードディスクドライブ(HDD)市場の縮小により、HDDヘッド及びマグネットの販売が減少し、前期比16.2%の減少となりました。

市場分野別売上高と構成比



・米国での堅調な販売に支えられて、自動車の生産は前期に比べて若干の増加となりました。それに伴い、セラミックコンデンサやインダクティブデバイスなどの受動部品の販売が堅調に推移し、前期比3.0%の増加となりました。

・北米、中国及び韓国のスマートフォンメーカー向けの高周波部品、圧電材料部品であるカメラモジュール用部品及びエナジーデバイス(二次電池)の販売が好調で、前期比26.7%の増加となりました。

セラミックコンデンサ

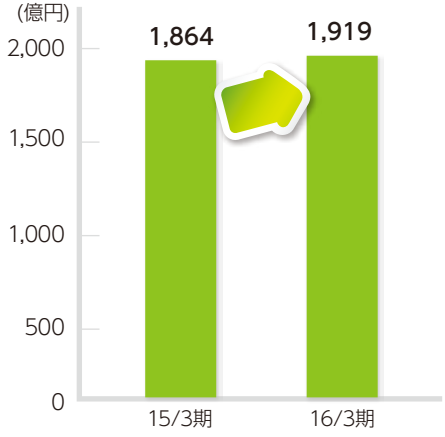
インダクティブデバイス

SAWフィルタ/高周波モジュール

リチウムイオンポリマー電池

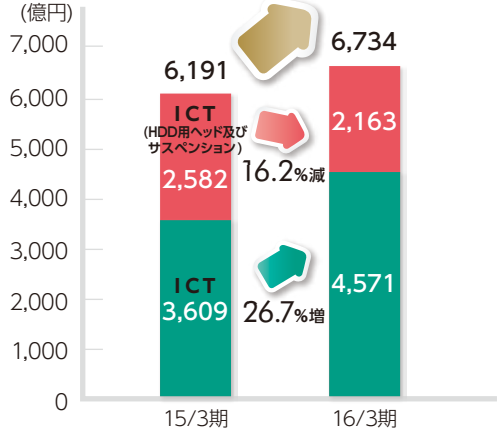
●自動車

前期比 3.0%増



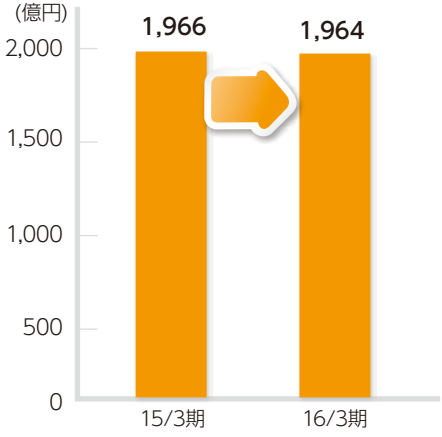
●ICT及びICT(HDDヘッド及びサスペンション)

8.8%増(全体)



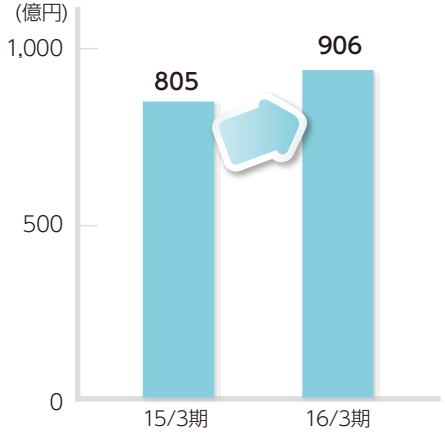
●産業機器ほか

横ばい



●その他

12.5%増



世界最高の雪上空中戦をTDKがサポート
～秋田モーグルW杯を特別協賛～

TDKは、2016年2月25日から28日にかけて開催された2016 FIS（International Ski Federation：国際スキー連盟）フリースタイルスキー ワールドカップ秋田たざわ湖大会に男女ゼッケンスポンサーとして特別協賛しました。世界13か国からトップ選手をはじめとする71名の選手が集結し、男女ともに世界最高峰のモーグルとデュアルモーグルの戦いを繰り広げ、9,500人の観客を魅了しました。

ワールドカップチャンピオンという栄冠をつかむために自らの技術を極限のレベルまで引き上げようとする選手の姿に、昨年創立80周年を迎えて新たに制定したTDKのコミュニケーションメッセージである“Attracting Tomorrow”を重ね合わせることができ、また、TDKにとって重要な拠点である秋田で開催される世界大会であったことから特別協賛を決定したものです。

世界トップレベルの選手が集結して繰り広げられた雪上空中戦。集まった人々の熱い声援を受けてダイナミックな滑りを見せてくれた各国の選手たちの戦いを、TDKも力強く応援しました。

▲女子モーグル表彰式の風景

「TDK創立80周年スペシャル アウトリーチミニコンサート」を開催

TDKは、「創造によって文化、産業に貢献する」という社是のもと、2003年から社会貢献活動として、TDKが協賛するオーケストラコンサートの楽団員による「アウトリーチミニコンサート」を実施しています。この企画には、次世代を担う若者たちが世界一流のアーティストによる演奏を目の前で鑑賞する機会を設けることで、音楽に興味や親しみを持ってもらいたいという思いが込められています。

2016年5月10日、世界最高峰のオーケストラ「ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団」の木管楽器奏者5名によるミニコンサートを、千代田区立麹町中学校にて開催しました。同校の体育館には全校生徒約330名と多くの保護者が集まり、会場は興奮と熱気に包まれました。

ダンツィ作曲の木管五重奏曲や楽団員が五重奏用にアレンジした「荒城の月」などが演奏され、生徒たちは曲によってガラリと音色を変える木管楽器の演奏に聴き入っていました。また、同校の吹奏楽部の演奏と全校生徒の合唱に楽団員も加わり、「花は咲く」を合同演奏し、生徒たちにとって忘れがたい体験となりました。

特集 IoT（モノのインターネット）時代に向けたTDKのチャレンジ

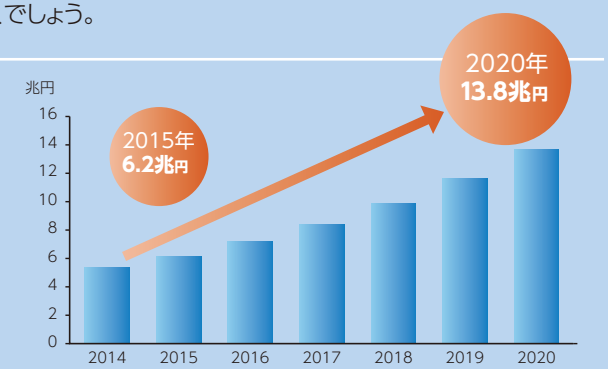
IoTとは？

昨今よく耳にするIoT（Internet of Things/モノのインターネット）とは、様々な「モノ」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みのことです。従来の人と人、人とアプリケーションを結びつけるインターネットから、“人とモノ”、そして“モノとモノ”をも結ぶネットワークへと発展し、通信機器はもちろんのこと、インフラ、産業機器、家電機器、ビル・住宅、生活用品など、あらゆるモノがインターネットにつながるようになると見込まれています。現在、角度や温度などの様々なモノの情報を知ることができるセンサ技術や、その情報をインターネットにつなげる情報通信技術、さらに、それらを作動させるエネルギー（電源）技術などを駆使して、自動車の自動運転やウェアラブル機器による健康管理などの開発が進んでいます。蒸気機関の利用、電力の利用、コンピュータの利用に続く第4次産業革命をもたらすといわれるIoTは、ビジネススタイルやライフスタイルを大きく変えていくでしょう。

IoT市場の成長

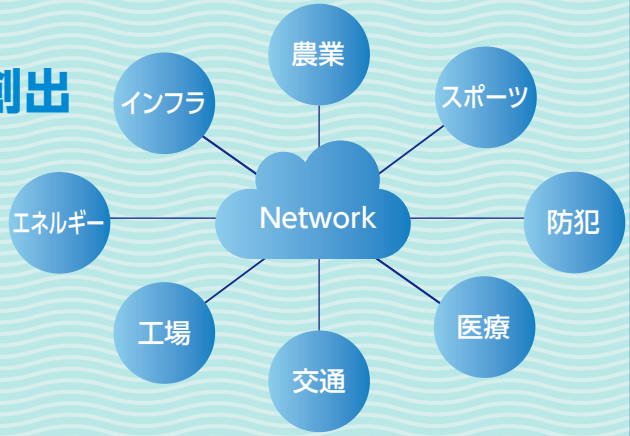
IoTによる経済的効果はきわめて大きく、インターネットとつながるIoT機器の市場規模は、東京オリンピックが開催される2020年には国内だけで約13.8兆円、世界全体では100兆円を上回ると予測されています。

（注）2014年は実績値、2015年は見込み値、2016年～2020年は予測値。
出典:IDC Japanプレスリリース「国内IoT市場 ユースケース（用途）別／産業分野別予測を発表」（2016年2月23日）

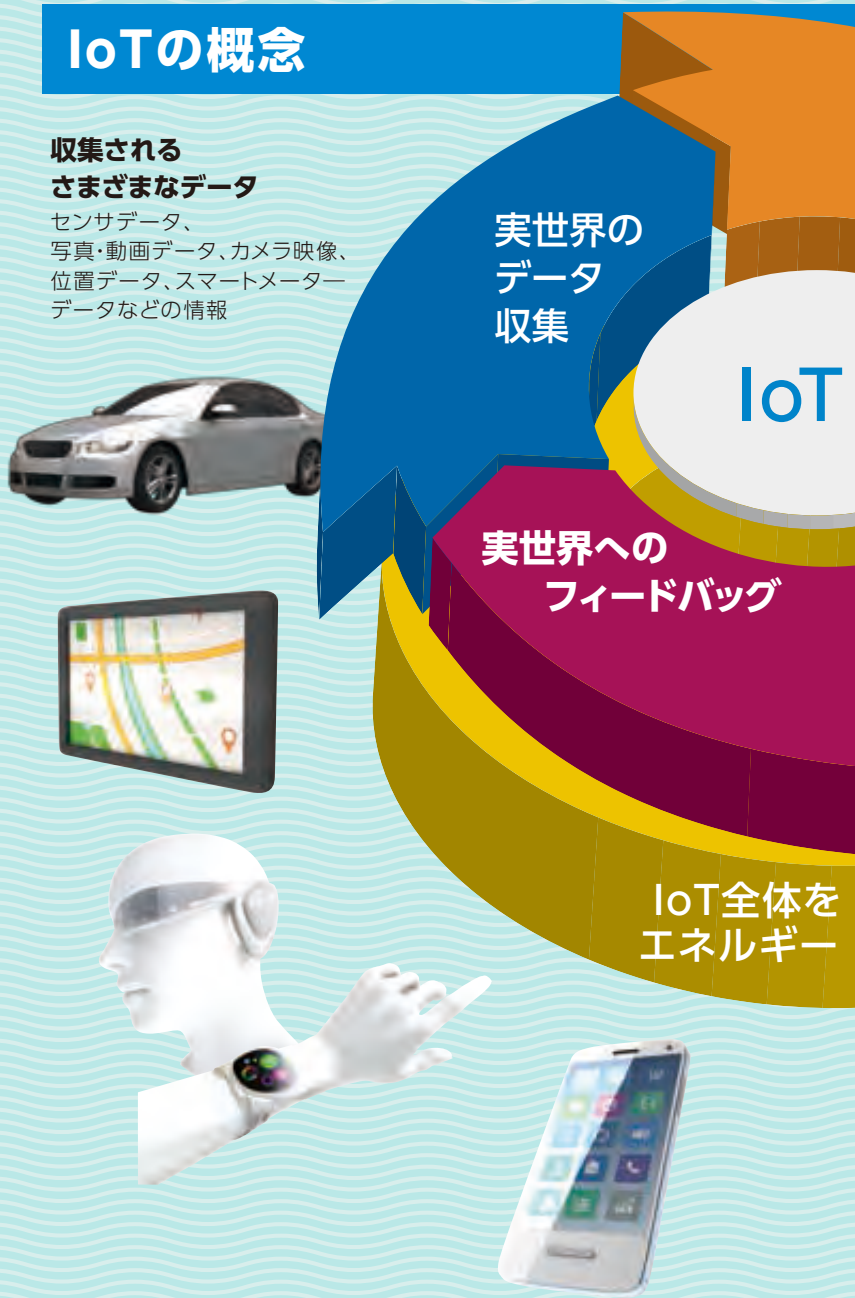


IoTが世界を変える！ 新しいサービス、ビジネスの創出

さまざまな分野でIoTの活用が進みそうです。たとえば、製造分野では機械どうしが情報をやりとりして、工程管理やメンテナンスまで自動的にこなすスマートファクトリーが当たり前のようになるでしょう。空調や照明を自動管理するスマートビルやスマートハウス、農業の生産性を向上させるスマートアグリなど、IoT時代にはあらゆる分野で“スマート化”が進行しそうです。



IoTの概念



IoTの進展にTDKの製品と技術が貢献します。

■TDKのチャレンジ

TDKは、自動車、ICT(情報通信技術)、産業機器・エネルギーの重点3市場への注力を通して、IoT市場における事業機会の獲得を目指しています。

■戦略成長製品

センサ・アクチュエータ

IoTを実現するのに必要な実世界の様々な**データを収集**する磁気、温度、圧力などの各種センサ

エネルギーユニット

IoT全体や次世代自動車の**エネルギーシステムを支える**DC-DCコンバータ／電池／オンボードチャージャー／非接触給電システムなど

次世代電子部品

データの伝送を担う情報通信端末やウェアラブル機器向け薄膜部品／複合部品／SESUBモジュール

成長が期待されるIoT市場における事業機会の獲得

■ さらなる事業強化を目指した積極的なM&A

センサ事業

スイスのホール素子センサメーカーミクロナス社*を買収

TDKの磁気センサ技術とミクロナス社のホール素子センサ技術を融合させ、自動車向けのセンサ事業を拡大していきます。

(2015年12月公表
2016年3月子会社化)

高周波部品事業

モバイル通信技術のグローバルリーダーである米国のクアルコム社と合弁会社を設立

合弁会社を通した高周波部品事業の推進と、IoTや自動車分野での技術協力について合意しました。

(2016年1月公表)

SESUB事業

半導体製造サービスの世界大手である台湾のASE社と合弁会社を設立**

TDKのIC内蔵基板"SESUB"技術とASE社の半導体小型化技術の融合により、ウェアラブル機器やヘルスケア用途の製品開発を目指します。

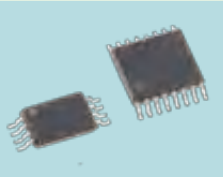
(2015年5月公表)

* ミクロナス社: Micronas Semiconductor Holding AG　** ASE社: Advanced Semiconductor Engineering Inc.

IoT市場向けの主なTDK製品

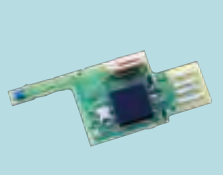
豊富なラインアップを誇るセンサ・アクチュエータ、エネルギーユニット及び次世代電子部品

材料技術、生産技術、モジュール&デバイス技術など、蓄積したコアテクノロジーによる総合力がTDKの強みです。



角度検知用TMR角度センサ

自動車の運転の安全性向上に貢献



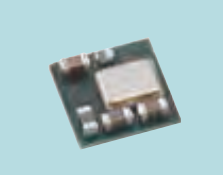
3 in1 MEMS*センサ

データセンターの空調などの省エネで活躍

*MEMS:チップ上にセンサやアクチュエータなど、微小な機能デバイスを構築する技術。

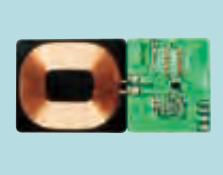
クランプ型AC電流センサ

ビルや工場などのエネルギー管理を最適化



SESUB(IC内蔵基板)モジュール

ウェアラブル機器などの小型、軽量化に寄与



非接触給電システム用コイル

ウェアラブル機器などの簡単ワイヤレス給電に貢献

株主メモ

● 株式に関するお問合せ先

証券会社等にて株式をお持ちの株主様

○ 配当金の受取方法の指定、変更 ○ 単元未満株式の買取・買増請求 ○ 住所変更、名義変更等	お取引のある証券会社等
未払配当金の照会、支払い	下記の株主名簿管理人

特別口座にて株式をお持ちの株主様

各種お手続き等	下記の特別口座管理機関

*特別口座の方は、証券会社等に一般口座を開設し、株式を振替えることをお勧めします。
（特別口座とは、2008年12月末までにほふり（証券保管振替機構）に株券をお預けにならなかった株主様の株式を、当社がお預かりし一旦管理させていただいている口座のことです）

株主名簿管理人及び特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先及び電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 電話：0120-782-031（フリーダイヤル）
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社　全国各支店

〈お知らせコーナー〉

配当金の受取方法について：
配当金はお受取り忘れのない、安心、確実、スピーディーな、口座振込でのお受取りをお勧めします！

単元未満株式の買取・買増請求について：
単元未満株式の買取・買増請求に係る当社に対する手数料は無料となっておりますので、是非ご活用ください！
（但し、特別口座の株主様を除き、証券会社等に対する手数料が別途必要となる場合がありますので、ご留意ください）

今回お送りした「配当金計算書」について：
確定申告を行う株主様は、添付書類としてご使用いただくことができますので、大切に保管ください！

TDK株式会社
〒108−0023　東京都港区芝浦三丁目9番1号
http://www.tdk.co.jp/

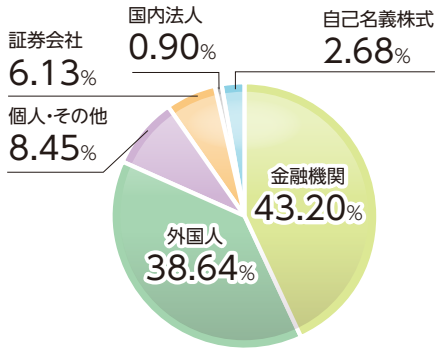
● 株式の状況

基本情報（2016年3月31日現在）

上場証券取引所	東京（証券コード:6762）
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当基準日	期末:毎年3月31日、中間:毎年9月30日
株主総会基準日	毎年3月31日（そのほか臨時に必要があるときはあらかじめ公告いたします）
定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告（当社のホームページ http://www.tdk.co.jp/に掲載いたします）
1単元の株式数	100株

株主の状況（2016年3月31日現在）　株主数 26,983名

株主構成（保有株式数ベース）



● 役員の状況

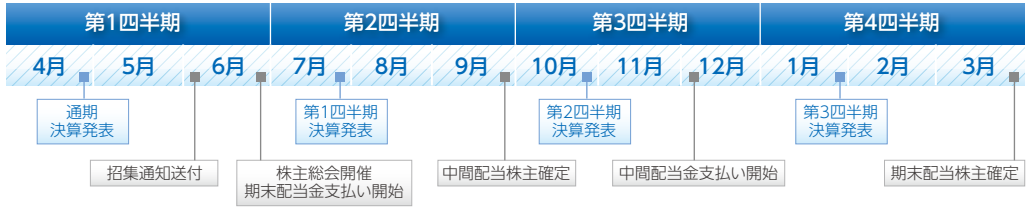
取締役、監査役及び執行役員（2016年6月29日現在）

取締役（*印は社外取締役）
代表取締役　上釜　健宏
代表取締役　石黒　成直（新任）
取　締　役　齋藤　昇
取　締　役　山西　哲司（新任）
取　締　役　澄田　誠*
取　締　役　吉田　和正*
取　締　役　石村　和彦*

監査役（**印は社外監査役）
常勤監査役　米山　淳二
常勤監査役　四居　治
監　査　役　八木　和則**
監　査　役　石黒　徹**
監　査　役　藤村　潔**

執行役員
社　　長　石黒　成直
副　社　長　植村　博之
専務執行役員　小林　敦夫
常務執行役員　逢坂　清治
常務執行役員　齋藤　昇
常務執行役員　Joachim Zichlarz（ヨアヒム・ツィヒラルツ）
執 行 役 員　桃塚　高和
執 行 役 員　永田　充
執 行 役 員　Joachim Thiele（ヨアヒム・ティーレ）
執 行 役 員　今本　敬一
執 行 役 員　末木　悟
執 行 役 員　Christian Block（クリスティアン・ブロック）
執 行 役 員　Norbert Hess（ノルベルト・ヘス）
執 行 役 員　Michael Pocsatko（マイケル・ポチャッコ）
執 行 役 員　Hong Tian（ホン・ティエン）
執 行 役 員　山西　哲司
執 行 役 員　Albert Ong（新任）（アルバート・オン）

● IR年間スケジュール



【編集後記】株主の皆様、いつも株主通信「TDK TODAY」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。今回は特集に、私たちのライフスタイルを大きく変えるかもしれないIoT（モノのインターネット）を取り上げました。IoTの中で、TDKの製品や技術がどのような形で貢献できるのか、どの分野に注力していくのかをお伝えできたとすれば幸いです。今後も、わかりやすくより良い紙面づくりに努めてまいります。どうぞ宜しくお願い申しあげます。

VEGETABLE OIL INK　この冊子は植物油インクを使用しています。

UD FONT　見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。